| 学校番号 | T3016 |
|---|---|

# 令和８年度　数学科

| 教科 | 数学 | 科目 | 数学Ⅰ | 単位数 | ２単位 | 年次 | １年次 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 使用教科書 | 新　高校の数学Ⅰ　（数研出版） | | | | | | |
| 副教材等 | 授業プリント | | | | | | |

## 1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・授業では、課題に対して、自ら考え、周りの人と協働で考える活動を行います。
・「定義・公式を知る⇒例題を教員と一緒に考える⇒例題を解決する⇒演習問題に一人で取り組む⇒演習問題を自力で解決する⇒解決の過程を振り返ってよりよい解決を考える」といった過程で自ら考えることを主軸として活動を行います。
・途中の式を必ず書きましょう。
答だけを書くのではなく、途中の式を書くことを大切にしてください。自分がどこで間違えるのかがわかり、振り返り学習が可能になります。
・定期的に課題を提出してもらいます。提出期限を守り、必ず提出しましょう。
・ノートを用意してください。
・中学校までの内容や、基本的な問題にも取組みます。

## 2　学習の到達目標

数と式、2次関数、図形と計量、集合と論証について理解する。
また、基礎的な知識や技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにします。さらに、それらを活用する態度を育てることを目標とします。

## 3　評価の観点及びその趣旨

| 観点 | a:知識・技能 | b:思考・判断・表現 | c:主体的に学習に取り組む態度 |
|---|---|---|---|
| 観点の趣旨 | 数と式、集合における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、知識を身に付けている。<br>数と式、集合において、事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。 | 事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数と式、集合における数学的な見方や考え方を身に付けている。 | 数学の論理や体系に関心をもつとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断しようとする。 |

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

| 学期 | 単元名 | 学習内容 | 単元(題材)の評価規準 | 評価方法 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 知(a) | 思(b) | 主(c) |
| 前期 | 式の計算 | 整式とその加法・減法<br>整式の乗法<br>因数分解 | a:乗法公式や因数分解の公式などを目的に応じて処理することができる。<br>見通しを持って式を展開したり、因数分解することができる。<br>乗法公式や因数分解の公式の意味を理解している。<br>いろいろな公式などを利用して、複雑な式を簡単な式に整理できることを理解している。<br>b:数式に対していろいろな見方をすることができる。<br>式の展開と因数分解の相互の関係が分かる。<br>c:式の展開や因数分解に関心をもち、目的に応じて式を変形しようとする。<br>複雑な式の展開やいろいろな因数分解では、置き換えや式の変形などを利用しようとする。 | ・定期考査<br>・提出課題<br>・問題演習 | ・定期考査<br>・問題演習<br>・観察等 | ・受講態度の確認<br>・提出課題<br>・問題演習 |
| 前期 | 実数 | 実数 | a:簡単な無理数についての四則計算ができる。<br>式の値を求めることができる。<br>数を実数まで拡張することの意義を理解している。<br>実数が数直線上の点と 1 対 1 に対応していることを理解している。<br>b:数を拡張してきた過程を考察することができる。<br>有理数を小数で表すことによって有理数の意味を考察することができる。 | ・定期考査<br>・提出課題<br>・問題演習<br>・観察 | ・定期考査<br>・問題演習<br>・観察等 | ・受講態度の確認<br>・提出課題<br>・問題演習<br>・観察 |

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 前期 | | 根号を含む式の計算 | c:数の体系を実数まで拡張する意義に気づくとともに、数を拡張していく過程に関心を持ち、調べようとする。<br>分母に根号を含む式において、分母を有理化する方法に関心をもつ。 | | | |
| 後期 | 1次不等式 | 不等号と不等式 | a:不等式の性質を基にして、1次不等式を解くことができる。<br>連立不等式の解を数直線上に表すことができる。<br>数量の関係を1次不等式で表すことができる。<br>不等式の性質を理解し、不等式の解の意味や不等式を解くことができる。<br>連立不等式の解の意味について理解している。<br>絶対値記号のはずし方を理解している。<br>b:不等式の性質を基にして、1次不等式の解き方を考察することができる。<br>1次不等式の解について、数直線と対比したり、いろいろな数値を代入したりして考察することができる。<br>c:数量の関係を不等式で表し、1次不等式を活用しようとする。<br>絶対値記号を含んだ方程式や不等式の扱い方を理解し、解いてみようとする。 | ・定期考査<br>・提出課題<br>・問題演習<br>・観察 | ・定期考査<br>・問題演習<br>・観察等 | ・受講の態度の確認<br>・提出課題<br>・問題演習<br>・観察 |
| | | 不等式の性質 | | | | |
| | | 1次不等式 | | | | |